

「国立成育医療研究センター」様で伺ってきました。

「生後すぐ保湿する」が発症を抑える可能性が発表されています。

国立成育医療研究センター(東京都)の発表によると、新生児のころから保湿剤(ワセリンなど)を塗ることにより、アトピー性皮膚炎の発症リスクを3割以上抑える可能性があるとのこと。

直接、センターを訪れようと、「アトピー性皮膚炎は、アレルギーマーチの第一歩の可能性があり、予防法を確立することで他のアレルギーを食い止めることが出来るかも知れない!」と、仰っていました。

塗り続ける期間や、保湿剤の種類など、多くの研究課題はあるようですが、少しでも発症予防の可能性が見えてきたことは、とても嬉しいことです。

では、発症してしまったアトピー性皮膚炎はどう対応できるのか、これからも私たちは調べていきます。

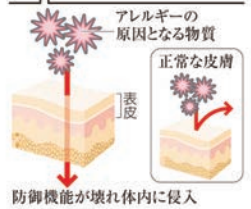


保湿、アレルギー防ぐ効果?

アレルギー疾患のうつりかわり



今回の研究で誘発示唆



生まれた直後から皮膚の保湿を続けることで、アトピー性皮膚炎だけでなく、食物アレルギーなどのアレルギー疾患の発症を抑えられる可能性がある。国立成育医療研究センターが1日発表した。皮膚の防御機能が守られ、アレルギー疾患につながる原因物質が体内に入るのを防ぐためとみている。

国立成育医療研究センター発表

同センターで生まれ、アトピー性皮膚炎になった家族がいる118人の赤ちゃんを、1日1回以上全身に保湿剤を塗る子と、ほとんど保湿剤を塗らない子に、くじ引きで半分に分け、生後約1週から32週まで経過をみた。この結果、アトピー性皮膚炎になったのは、保湿剤を塗った子が19人、塗らなかつた子が28人。塗った子はアトピー性皮膚

皮膚の防御機能守る

膚炎の発症リスクが32%低かったという。また、アトピー性の湿疹がある子とない子と比べると、湿疹がある子の方が卵アレルギーを発症している割合が高かった。アトピー性皮膚炎は、皮膚の乾燥などによって防御機能が壊れ、アレルギーの原因物質が体内に入りやすくなって起きるという説が有力だ。アトピーを入りに、食物アレルギーやぜんそく、花粉症に移っていくと考えられており、保湿でアトピーを防ぐことで、その後のアレルギー疾患の発症も抑えられるのではないかとしている。センターの大矢幸弘アレルギー科医長は「今後、より大規模な研究を長期的に行い、アレルギー疾患を完全に予防できる治療法につなげたい」と話す。(岡崎明子)